

砺波市立中学校再編計画（案）【概要版】

1 概要

本計画は、令和7年5月9日開催の砺波市総合教育会議において確認した「砺波市立学校の規模適正化に関する答申書」の内容に基づき、策定するものです。

(1) 計画の位置付け

本計画は、「砺波市総合計画」を上位計画とし、整合を図りながら策定しますが、総合計画の見直しなどに応じて今後も修正します。

(2) 計画期間

本計画は、令和8年度から令和14年度までの7年間とします。

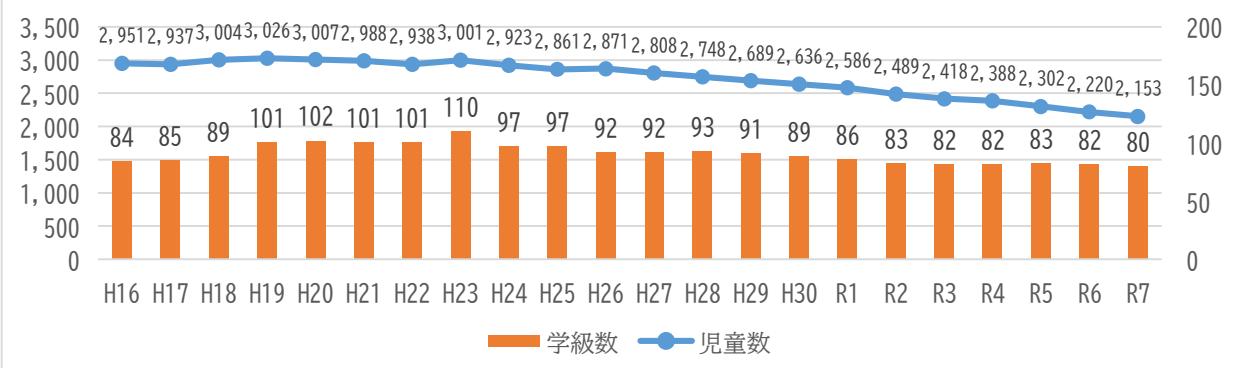
2 主な現状と課題

(1) 児童・生徒数及び学級数の推移

本市における小学校の児童は、平成16年度から令和7年度の約20年間で798人減少しました。また、学級数は、4学級減少しました。

中学校の生徒数は、平成16年度から令和7年度の約20年間で98人減少し、学級数は、3学級減少しました。

小学校の児童数と学級数の推移（令和7年5月1日現在）



第2次砺波市総合計画
～庄川と散居が織りなす
花と緑のまち～

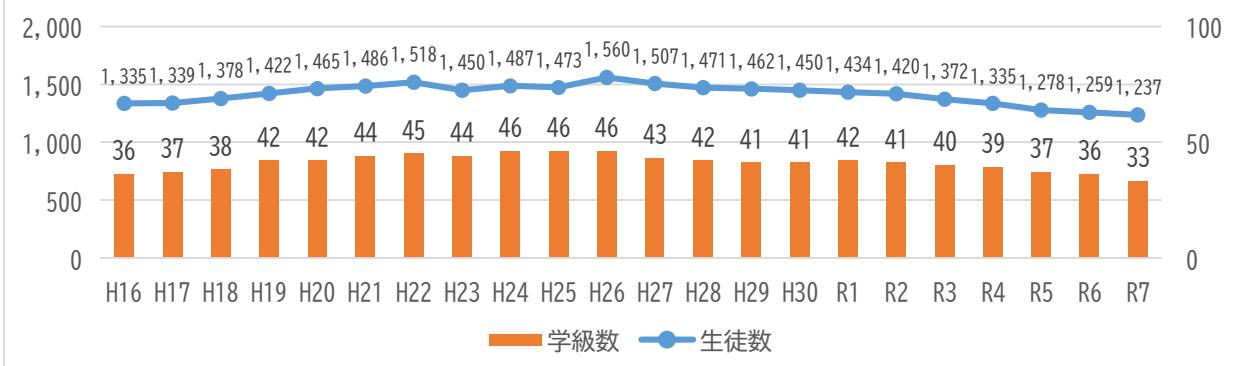


資料ア-2

砺波市立中学校再編計画
計画期間：令和8年～令和14年度

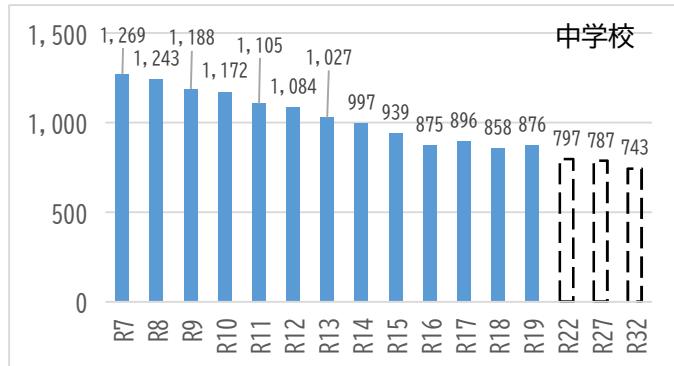
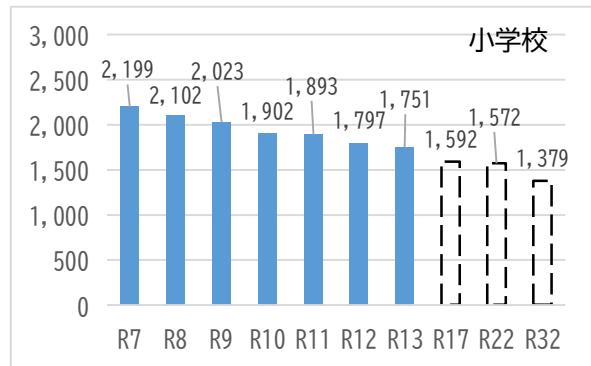


中学校の生徒数と学級数の推移（令和7年5月1日現在）



(2)今後の児童・生徒数の推計

住民基本台帳及び国立社会保障・人口問題研究所の5年ごとの地域別将来推計人口より算出すると令和32年には大きく減少します。



(3)学校施設の老朽化

本市の学校施設は、昭和50年代前後に建築されたものが多く、現在の耐震基準を満たすため、耐震診断を実施した後、平成20年から随時必要な改修を実施してきましたが、築後58年を経過している校舎もあり、老朽化の進行に伴って更新や維持管理費用が増加しています。

学校施設（建築物）の所有面積は、計画策定期点において公共施設全体の37.2%であり、施設分類中、最大の割合を占めています。

(4)中学校の部活動部員数の推移

令和5年度から令和7年度の中学校の部活動入部率は、各中学校の規模により部活動の開設数は違いますが、小規模校では部員数が少なく、団体競技の運動部ではチーム編成が困難になっているなど、十分な活動ができない状況もあります。



中学校の部活動部員数（令和7年5月1日現在）

学校名	出町中学校			庄西中学校			般若中学校			庄川中学校			
	年度	R5	R6	R7	R5	R6	R7	R5	R6	R7	R5	R6	R7
全校生徒数		619	600	608	431	423	401	106	119	108	122	117	120
部活動入部者数計		618	597	604	429	421	400	106	119	108	122	117	120
入部率 (%)		99.84%	99.50%	99.34%	99.54%	99.53%	99.75%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

陸上競技	51	64	70									
軟式野球	20	20	20	20	17	11	15	11	14	8	10	13
ソフトボール				6	9	12						
サッカー	56	49	41	29	28	21						
ソフトテニス(男)	29	26	26	36	31	21				13	17	14
ソフトテニス(女)	38	29	36	26	19	26				6	10	13
バスケットボール(男)	37	40	45	23	19	19	9	15	13			
バスケットボール(女)	36	36	30	14	13	7	10	12	10			
バレーボール(男)	28	19	22	1	1	1				14	9	8
バレーボール(女)	25	22	20	15	12	16				12	12	8
卓球(男)	21	21	28	30	15	18						
卓球(女)	23	22	17	24	29	34						
バドミントン(男)	26	32	33	38	49	39						
バドミントン(女)	37	41	32	13	9	9						
柔道	11	15	17	10	13	12						
剣道	16	12	11	14	15	16	11	11	9	17	6	7
新体操				4	3	3						
計	454	448	448	303	282	265	45	49	46	70	64	63

吹奏楽	54	43	44	41	34	25	33	35	32	23	19	21
美術	33	35	32	29	45	51				29	34	36
情報科学	28	21	19									
E S S	9	11	17									
文化部	生活クラフト	24	25	29								
合唱	16	14	15									
家庭				26	30	27						
放送				30	30	32						
生活文化							28	35	30			
計	164	149	156	126	139	135	61	70	62	52	53	57

(5)まとめ

近年、少子化傾向に伴う児童生徒数の減少が進行し、小中学校の小規模化が深刻化してきている状況にあります。

子供たちがより良い環境の中で教育を受けられる視点を大切にし、これまで積み上げられてきた教育の取り組みを重視するとともに、小中学校の適正規模及び適正配置を検討する必要があります。

- 人口減少により、標準規模の学級数(12学級以上18学級以下)が益々維持できなくなる。
- 部活動などのチーム編成が困難になり、十分な活動ができなくなる。
- 専門的な教科の教員が不足し、子供の教育環境にも影響を与える可能性がある。また、教員の負担が増える。



3 適正規模学校の整備（12学級以上18学級以下）

○12学級以上にすることによるメリット

(1) 教育効果の向上

- ア クラス替えの実施
- イ 多様な教育活動の展開
- ウ 教育活動の幅の拡大



(2) 学校機能の向上

- ア 教員の配置

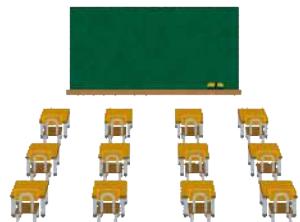
※児童生徒の心身ともに健やかな成長を第一に考え、一定の学校規模や学級数を確保することが必要

4 基本的な考え方

○砺波市の中学校の再編は、次の考え方を基に取り組みます。

(1) 再編基準

- ア 1学級あたりの生徒数
 - ・1学級35人（R6.12.24 教師を取り巻く環境整備に関する合意による）
- イ 1学校あたりの望ましい学級数
 - ・12学級以上18学級以下



(2) 再編の手法

- ・対象校を閉校し、新設中学校を開校する「新設統合」



(3) 新設中学校開校準備委員会の設置

- ・対象校の教職員及び保護者、地域住民等で構成（児童生徒も参加）
 - ①教育目標などの企画立案
 - ②通学路の安全対策
 - ③遠距離通学者への通学支援
 - ④PTA組織の再編 etc



(4) 学校施設の整備（国からの補助金を積極的に活用）

- ・体育館にエアコンの設置など



(5) 学校再編にあたっての児童生徒への配慮事項

- ア 対象小中学校の交流事業

- イ 教職員の配置



(6) 校区の再編及び校区外就学

- ア 校区の再編は行わない

- イ 校区外就学したい場合、所定の申請を行う

(7) その他

- ・通学路の安全対策
- ・遠距離通学者への支援
- ・教育環境の整備
- ・特別支援教育
- ・地域と学校の連携
- ・閉校する学校の施設及び敷地



5 具体的な方策

○砺波市の中学校の再編の具体策は、次を基に取り組みます。

(1) 新設中学校

ア 対象校

- ・庄西中学校、般若中学校、庄川中学校

イ 開校の時期

- ・令和15年4月1日を目標

ウ 学校の位置及び施設整備

- ・対象校区の生徒数の推移や人口の重心などを考慮し、現在の庄西中学校周辺に新校舎を建設

①スクールバスや公共交通機関等を利用する生徒の利便性確保

②既存の学校敷地を一部利用できる可能性があり、土地を有効に活用

エ 開校時の生徒数の予想

学校名	区分	1年	2年	3年	合計
新設中学校	生徒数	135	150	158	443
	学級数	4	5	5	14

オ 開校時の1学級あたりの生徒数の予想

	1年	2年	3年	合計	学級数
通常学級	1組	34	30	32	
	2組	34	30	32	
	3組	34	30	32	
	4組	33	30	31	
	5組		30	31	
合計	135	150	158	443	14

カ 通学区域

- ・砺波東部小学校、庄南小学校、庄東小学校、庄川小学校区域内

キ 開校準備委員会の設置

- ・令和11年度に設置

ク 開校までのスケジュール



内 容	時 期
●「新設中学校開校準備委員会」の設置	令和11年度～令和12年度
●施設整備（新校舎建設）完了	令和15年2月
●現在の3中学校の閉校	令和15年3月
●新設中学校の開校	令和15年4月

コ 事業手法の検討

- ・基本計画の策定と並行して事業手法の比較検討を実施
(分離発注（従来）方式、PFI可能性調査など)

